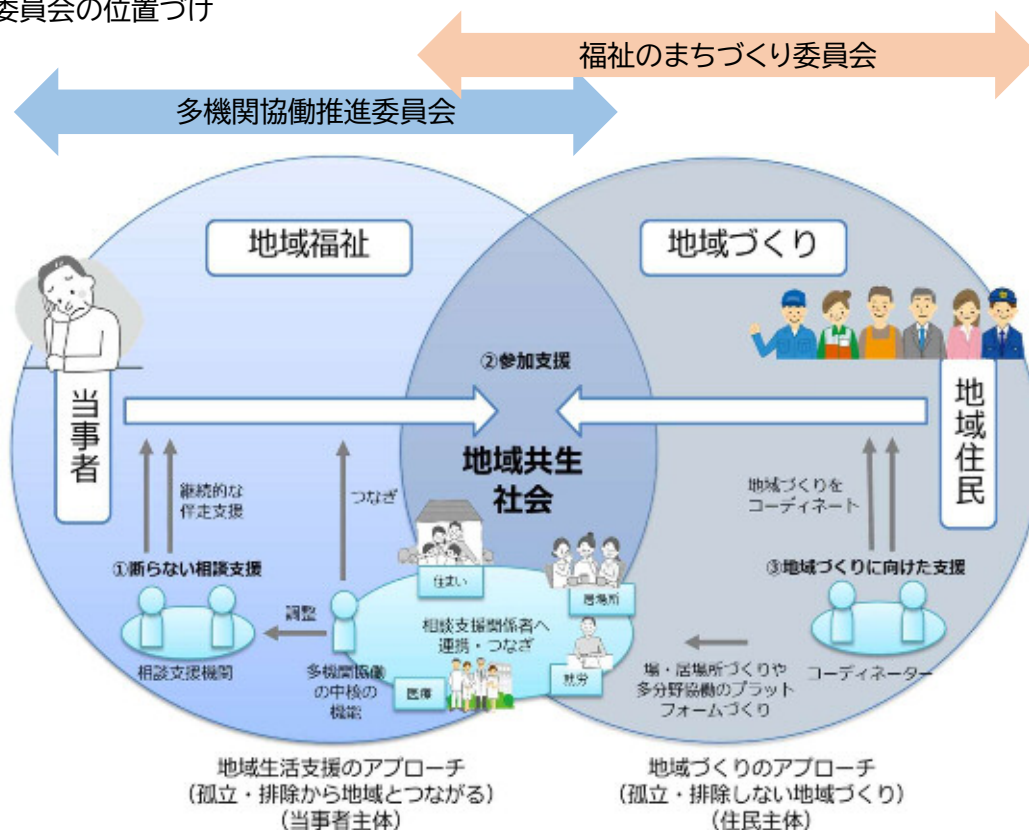


多機関協働推進委員会の報告(R6.12)

■委員会の位置づけ



『チームでまちをデザインする』(2023年)、P.14

■協議内容:重層的支援体制整備事業における成果と課題(要約)

【成果】

本人の支援に関係する支援者が集まって、支援について考える会議や研修等を通して、地域や社会との関わりやつながりづくりについて話し合う機会を増やした結果、専門職が地域とのつながりづくりを考える視点が育ちつつある。

【課題】

- ①関係機関が集まっている福祉センターでは、比較的連携しやすいが、外の関係機関(教育や地域包括支援センターなど)において、多機関協働や連携がうまくいっているかわからない。
- ②今は本人や家族のバランスがとれていて、うまくいっているが、将来的に本人や家族などだけでは対応が難しくなって、専門職の関わりが必要になると予測されるケース(例:70歳40歳の世帯で、親が今は元気だが、子どもがひきこもりの状態など)が、様々な機関からあがってくる仕組みにする必要がある。
- ③取組内容が、専門職同士の連携や専門職からみた地域とのつながりづくりに寄りがちなため、もう少し地域の方々と一緒に考えていく地域づくりに向けた支援についても目を向ける必要がある。